

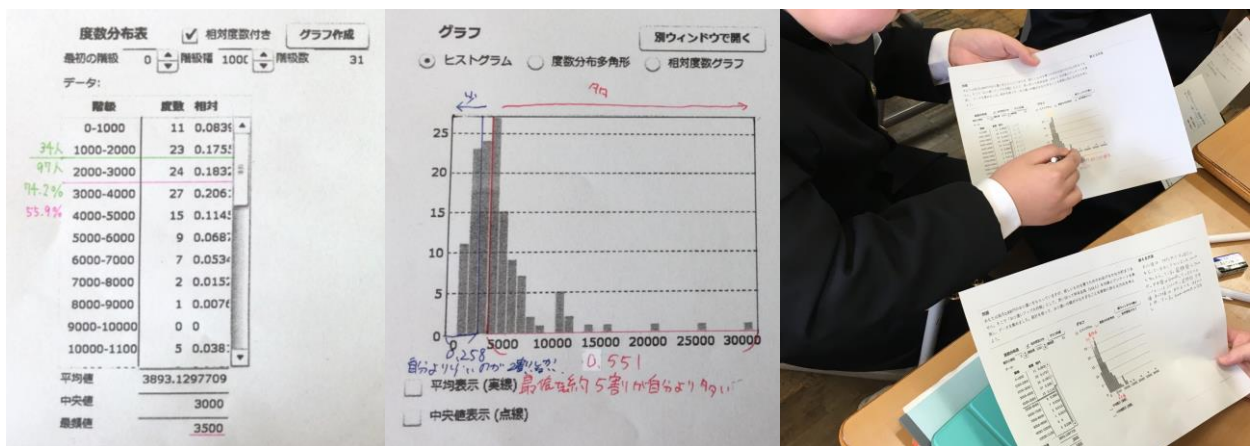
# お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園・授業者：上越教育大学附属中学校・青柳潤
2. 学年・教科等・単元等：中学校第1学年・数学科・「資料の活用」
3. 基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校
4. 基にした実践：「累積度数」

お茶の水女子大学附属学校園算数・数学部会編著（2018）『「データの活用」の授業～小中高の体系的指導で育てる統計的問題解決力～』，pp.110-115より

## 5. 実践の概要

平成31年3月12日に実践した。基にした実践からアレンジした点は2点ある。1点目は、度数分布表やヒストグラムから傾向を読み取り説明できるように、表やグラフに直接書き込むワークシートの形式を用いたこと。2点目は、多面的に吟味できるようにワークシートを用いて子ども役として説明する場と、家族役として説明を聞く場を交互に設定したことである。



## 6. 実践してみた感想など

クラスの約半数の生徒が、表とグラフに書き込みを行う過程で3000未満の階級の累積度数と累積相対度数に着目し、2000の値は全体の中で少ない方に位置していると判断した。互いに説明する場をあらかじめ伝えていたため、問題に取り組む生徒の意欲は高かった。今後は、それぞれの立場で説明した後で納得度を相手に伝えたり、根拠として用いた統計量の正しさをペアで吟味したりする場を設定していきたい。